

みんなのほくぶつかん みんなぱく

MINPAKU

末永く、ご覧いただくために。

本館展示、資料の公開と保存のローテーション

6月16日（木）、新しくなった本館の中央・北アジア、アイヌの文化展示がオープンします。これで、2009年より続いていた本館展示の更新がひととおり終了しますが、公開後も、引き続き資料の微調整や追加、一部の展示替えなどをおこなっていきます。

この3月には、南アジア展示場の8体のマネキンがまとう衣装が替わりました。一度限りの展示替えではなく、1、2年ごとに2、3着をローテーションで替えていきます。展示替えをした上羽陽子先生によると、みんなぱくで収蔵している南アジアの衣装や布に関する膨大な数のコレクションから、この地域の衣装の豊かさを多くの方にご紹介するのが目的のひとつのことです。



南アジア展示、村落の衣装をまとった男女のマネキン2体。左が昨年4月に、右が今年5月に撮影したものです（それぞれ、祭礼用と日常用の衣装です）。これらに加えて、現代ファッション衣装と婚礼衣装のマネキン6体が、それぞれローテーションで展示替えされます。

マネキンに着付けることで傷みやすくはなりますが、平置きではわからない、布や衣装の特性、現地での実際の利用のされかたが、よくわかるようになります



光は資料の状態に大いに影響を与え、退色や劣化の原因になります。みんなぱくでは、今年の3月に、すべての展示場の照明をLED化しました。省エネのみならず、従来よりも資料の劣化を軽減する効果があるそうです

西アジア展示のハサン・マスウーディーさんのイスラーム書道の作品も、展示替えしています。そのほか、古いコーランや、ラクダを描いた江戸時代の引き札、パレスチナの衣装（カワール・コレクション）、ペリー・ダンサーのダンダンジョさんの衣装などが入れ替わります



展示替えのもうひとつの重要な目的として、資料の保存があります。マネキンに着付けていると、どうしても布に負担がかかってきてしまいます。布の資料がなるべく劣化しないように、定期的に入れ替えて収蔵庫で休ませるのだそうです。布だけでなく、照明や湿度などの影響を受けやすい紙の資料の一部も同じように、西アジア展示場などで展示替えをおこなっています。

みんなぱくの本館展示は、いつでも見られる常設のもの、ローテーションで入れ替わるものがみなさんをお待ちしていますので、何度でも足をお運びください。多様で膨大な展示資料をご覧いただくとき、「公開・活用」とともにある、「保存」という博物館のもうひとつの役割についても感じていただければと思います。

みんなぱくをもっと楽しみたい人のために———会員制度のご案内

詳細については、「国立民族学博物館友の会（一般財団法人千里文化財団）」までお問い合わせください。

電話06-6877-8893（平日9:00～17:00）

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんなぱく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんなぱくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます（特別展示は観覧料割引）。他にも、みんなぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

国立民族学博物館

キャンパスメンバーズ

みんなぱくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。